

岸連合自治会・岸地区福祉協議会
〒258-0112 足柄上郡山北町岸2061

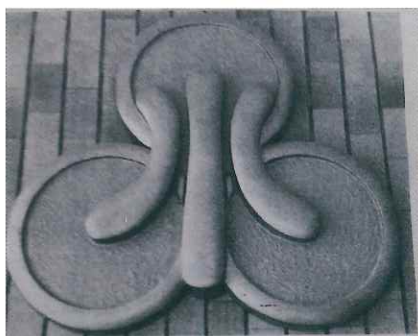
発行責任者 渡辺 良孝
編集責任者 河合 剛英

川村小学校の変遷

校章の話

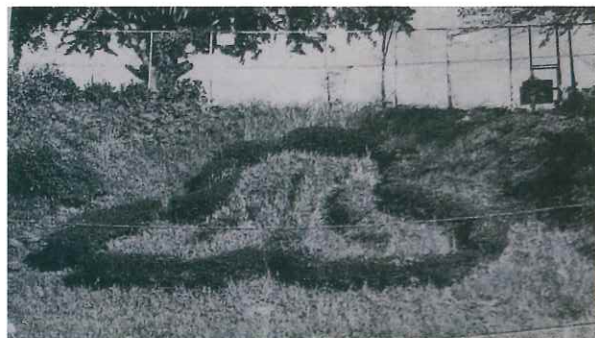
川村小学校の校章の歴史について、少し調べてみました。学校は、明治6年に川村岸般若院の本堂の一部を借りて教室とし、「貫穿舎(かんせんしゃ)」として始まりました。川村山北、川村向原も、それぞれ成就院、金台寺で幼年生の授業を始めました。それからは、学区の合併や学制の改革などによる変遷を経て、明治27年に尋常川村小学校となりました。

さて、では校章はいつから使われていたのでしょうか。実は、時期ははっきりとはわかっていません。明治30年頃に在籍していた人が、現在の形の帽章を使っていたという話から、明治27年に校舎を移転した時期から使われていたのではないかと推察されているようです。図柄についても誰が考案したのかわかっていません。卒業生は、在学中に「川村岸、川村山北、川村向原の3地域を〇で表わし、中に小とも川ともとれる文字を入れた」と教えられていたと言います。また昔の子どもたちは、「団子3つに箸3本」と言って親しんでいたようです。



ところが、昭和51年、川村小学校の百年誌編集のために、般若院の川畠一壽氏にお話を伺ったところ、河村秀清の末流に代々河村権七を名のる人がいて、その一代目の権七の兜が現存しており右側の折り返しに校章と同じ紋所があるということがわかりました。また、同じ紋所が、河村勝興という人の位はいにもあるそうです。これらのことから、この校章は、山北、岸、向原の3つの地域を象徴するというだけでなく、河村氏との関係もあったと考えることができます。

このように、とても長い間使い続けられてきた校章ですが、皆さんが一番目にするのは、校門へ上る坂道の左側土手にあるサツキの校章ではないでしょうか。この植栽は、昭和43年にPTA創立20周年の記念事業として植えられました。急斜面で作業はたいへんでしたが、多くの会員の力によって無事に完成しました。幾度かの暴風雨にもまけず、毎年春には美しいサツキの花が咲いて目を楽しませてくれています。



川村小学校土手の校章

児童数の減少などにより、平成27年3月に川村小学校は一度閉校し、同時に清水小学校と統合した新しい川村小学校になりました。その後、令和3年に三保小学校が統合されました。私たちは、地域に住む者として、これからもあたたかい目で見守っていきたいと思います。

参考文献「足柄乃文化」第35号、「開校百年記念誌」



その振込、大丈夫!!

息子や娘、警察や税務署、カード会社などを装った特殊詐欺が多発しています。

「自分は大丈夫」とは思わないでください。電話で送金を依頼して来るものは全て詐欺です。「お金が必要」「新しいカードに変更」「還付金」「電子マネーを買って」などの電話があったら、迷わず110番。

昨年10月20日(日)山北町統一美化 クリーンキャンペーンが実施されました

少し雨混じりの曇り空の下、不法投棄パトロールを兼ねた散乱ゴミの一齐清掃が岸6地区それぞれで実施されました。各地区清掃の様子を写真で紹介します。

湯坂地区



斑目地区



越地地区



宿地区



南原地区



1月12日(日)どんど焼きが行われました

～曇り空のもと各地区で正月の縁起物をお焚き上げし、無病息災を願う
どんど焼きが行われました。各地区の様子をダンゴ写真で紹介します～



湯坂



斑目



越地



宿



南原



原耕地



越地自治会活動の紹介

今回は越地自治会で継続して行われている伝統的な2つの行事についてご紹介します。

一つ目は、「交通安全祈願」、二つ目は、「山の講」についてご紹介します。

【交通安全祈願】

過去、越地区内で発生した交通事故で、2名のお子様犠牲になったことをきっかけに、昭和56年8月に「交通安全を考える会」が発足しました。

平成12年東光院住職にお願いし、交通事故で亡くなられた方のご供養と辻供養を行ったのが始まりです。

毎年1月23日の岩流瀬字地藏尊のお祭りに合わせ、東光院本堂で物故者の冥福と越地区内の交通安全を祈願する法要を行った後、練供養、辻供養を行っています。

【山の講】

山から得られる恵みを共有する人たちが、果実や山菜の収穫、植林や伐採、道づくりや山の管理など、山に感謝をするために安全を祈念し、山の神を祭祀し、祭りの後飲食し親交を深めるなど、山に関わる仲間集団を意味しています。行事として、4月に田植えの準備「堰さらい」、10月には台風などで荒れた山の道を整備するための「道づくり」を地区総出で行い、作業が終わると一堂に集まり飲食をし、親交を深めていました。

現在は10月のクリーンキャンペーンの後に、いきいきセンターのホール正面に山の神「大山祇命」の掛軸を掲げ、掛軸の下に御神酒、水、お米、塩、頭付きの魚、野菜、果物を供え、二拝二拍手一拝を行い地域の安全と山の恵みに感謝しています。

これらの伝統行事を地元の多くの皆様に知っていただくとともに理解していただき、今後も皆で継続して取り組んでいくことが大切であると思います。



カメラ散策

既に各方面からいろいろ紹介されご存じの方が多くと思いますが、昨年11月初頭、斑目地区 原博志さん宅のざる菊を改めて取材させて頂きました。その年の夏が異常に暑かったため約半数の菊が枯れてしまったということですが、それでも見事に咲き誇ったざる菊がとても素敵でした。原さんのざる菊との出会いは、八幡神社のざる菊展で一鉢購入した事、それから約十年大事に育ててきたそうです。原夫妻の気さくで優しい人柄と相まって、とても癒やされた一時でした。



備えていますか？災害備蓄は普段使うものを多めに

今年は阪神淡路大震災から30年。我が家の備えを見直してみましょう。食糧は乾パンなどではなく、普段食べるクッキーやお煎餅、お米や乾麺、缶詰、乾物など普段使う食材を一袋多めに買い置きしておきましょう。カートリッジガスコンロは災害時も調理できるので、普段はお鍋などで使い慣れておきましょう。



©KAMIKURA



消防出初め式

1月6日(月)10時から山北町立生涯学習センター・多目的ホールにて山北町消防出初め式が開催されました。

岸第4分団は7名の団員が参加し、佐藤秀夫 班長と天野雄 機関員が表彰されました。当日は、消防団の皆さんのキビキビした行動に感動し、今年の山北町のスタートとして素晴らしい式典となりました。

敬老茶話会

秋らしさを増した昨年10月24日、いきいきセンターで「敬老茶話会」が開催されました。

当日は80歳以上の方が参加され、健康体操を体験した後、岸幼稚園の園児が組体操や歌を披露してくれました。また、劇団「岸夢一座」の演劇などを楽しみました。



囃子保存会

囃子保存会は、岸保存会・山北保存会・向原保存会があり、この保存会の方々により川村囃子は、守り、受け継がれています。

岸保存会の正式名称は「川村岸囃子保存会」で、昭和48年(1973年)1月に有志によって「岸保存会」が結成され、平成30年(2019年)には保存会員80名を有しており下部組織である「囃子連」も25名が加入していました。

岸保存会の活動は、八幡神社の例大祭以外にも、夏祭りを始め町内外からの出演要請があれば積極的に参加して、川村岸囃子(昭和50年町の無形文化財に指定)を伝承していました。

コロナ禍前は八幡神社の例大祭や岸連合自治会の夏祭りで公演を行っていましたが、コロナ禍以降は公演を見合わせています。

昨年12月に保存会員・囃子連の募集を行ない活動再開に向け準備を進めていますので、興味のある方は振って参加して頂きたいと思います。特に、子供たちの参加を大歓迎いたします。ご興味ございましたら各地区自治会長にご連絡いただければと思います。

岸連合自治会・岸地区福祉協議会の広報部長として岸広報の発行に尽力いただきました原耕地自治会長の小田勝美様が昨年末に急逝されました。生前の様々な自治会活動に感謝申し上げますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

お知らせ・今後の日程

- 3月 2日(日) 岸連合自治会定例総会
- 3月22日(土) 岸地区福祉協議会
青少年健全育成会合同総会
- 4月 6日(日) 八幡神社例大祭
- 5月 5日(祭) 文命祭

編集後記

慣れない広報活動を始めて1年が立ちました、住民の皆様楽しんでいただける広報が出来たのか心配でしたが、知恵を出し合い進められたと思います。最終号は苦労しましたがなんとか発行できました。委員の皆さんは最後になりますが1年間お疲れ様でした。